

嘉手納基地では新田原基地への訓練移転後も騒音激化

赤嶺議員の質問主意書の政府答弁で明らかに

「米軍再編」計画は中止を

日本共産党

新田原基地の訓練移転のための施設整備

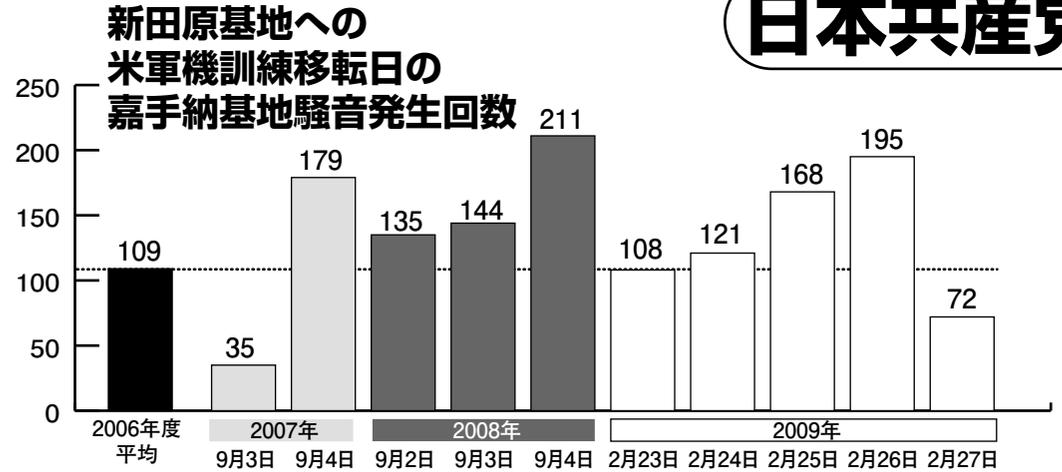
- 滑走路等の測量、土質等調査及び設計…約3億円
- 滑走路の改修工事期間中一時的に航空機が離着陸できる仮設滑走路の整備…約23億円
- 仮設滑走路の整備に伴う排水対策としての調整池の整備…約11億円
- 大型輸送機が離着陸できるようにするための滑走路等の嵩上げ工事…約45億円
- 訓練時に最大で二百人の米軍人の滞在を可能にするための食堂を含む隊舎の整備…約6億円



米軍再編問題で交渉する日本共産党の九州・沖縄代表ら(左3人目が赤嶺議員=2009年5月20日)

新田原基地

88億円をかけて施設整備「滑走路2本化」で基地強化



赤嶺政賢衆院議員は「航空自衛隊新田原基地における『米軍再編』に伴う日米共同訓練と施設整備に関する質問主意書」を5月15日提出、26日には麻生太郎内閣総理大臣名で答弁書がだされました。以下、その要旨です。

嘉手納基地 10日中7日も騒音増大

「嘉手納基地では、基地負担が軽減されるどころか、同基地所属機以外の米軍機(外来機)の飛来と訓練などにより、負担が増大しているのが実態(主意書)です。」

騒音原因の外来機飛来「把握していない」(政府)

答弁書では、「米軍再編」によつて、F15戦闘機の日米合同訓練を嘉手納基地から宮崎・新田原基地に移転実施したにもかかわらず、その訓練期間中の米軍嘉手納基地の騒音発生回数が、移転前より増えていることが明らかに。

2007年から08年度に、嘉手納から新田原への訓練移転は3回実施(計10日間)。嘉手納基地周辺での騒音発生回数が、訓練移転前の06年度の1日平均109回を7日間上回っていました。(図参照)

「米軍再編」計画は中止撤回すべきです。

答弁書では、新田原基地で6月から実施の施設整備の内容と経費の内訳が明らかに。より大規模な訓練(タイプII)の実施に向け、滑走路のかさ上げ工事に45億円、滑走路の工事中に離着陸する仮設滑走路の整備に23億円など(表参照)、88億円かけて整備するとしています。

仮設滑走路「残置を含め検討」(政府)

答弁書は「新田原飛行場における米軍再編に係る訓練移転のための施設整備完了後の仮設滑走路の取扱いについては、残置を含め、検討」とことえ、仮設滑走路が残り、「滑走路2本化」で基地強化になる可能性もあります。

基地外の排水対策示さず

新田原基地は高台に位置

し、周辺地域では基地から流れ出る雨水による被害が発生し、今回の仮設滑走路の新設で、雨水の流出量が増加し被害の拡大が懸念されます。

答弁書は「基地内に8ヶ所の調整池を整備し」放流量を調整するといひ、地元自治体が求める基地外の排水対策については示していません。

仮設滑走路の環境アセス「要しない」(政府)

仮設滑走路について、長さが2700mで、「環境影響評価法(アセス)に基づく第一種事業(滑走路長2500m以上の飛行場及び施設の設置又は変更の事業)に該当する」との赤嶺議員の指摘には、仮の滑走路なので「環境影響評価法に基づく手続を要しない」と答弁。「残置を含めて検討」なら、環境アセスが必要です。